

森林盗伐 許さない

日本共産党

熊本県の盗伐被害の現場を調査する田村貴昭衆院議員

九州南部を中心に、全国で森林の無断伐採が相次いでいます。被害が最も深刻な宮崎県の「盗伐被害者の会」は170世帯にまで拡大し、被害総額は15億円におよんでいます。泣き寝入りした被害者も合わせれば、宮崎県だけで数千件に及ぶとされています。

日本共産党は、田村貴昭衆院議員を先頭に、被害者の会と連携し、この問題をたびたび国会で取り上げ、行政と警察の対策を求めてきました。

卑劣な犯罪 警察まともに対応せず

盗伐業者は、高齢者や遠隔地の居住者など、現場を見に行くことが難しい所有者を狙う、卑劣な犯罪を繰り返していました。告発されても「間違っただけで『誤伐』だ」と主張し、低額の賠償で済まそうとしてきました。

警察も「民事だ」と言って取り合わず、被害届を受理しない、被害者を追い返すなど、まともに捜査をしようとしませんでした。

林野庁動かした質問 取り締まりの徹底を

田村議員は国会の衆院農林水産委員会で、2017年以降、たびたび政府の姿勢を追及。政府は当初、「誤伐か盗伐かわからない」と答弁していましたが、田村議員が粘り強く事実を突き付けてきたことで、変化が生まれています。

林野庁は2021年、初めて宮崎の盗伐調査を実施。田村議員の質問では、行政と警察が積極的に対応すると答弁しました。

また、警察も摘発に動き、被害届を受理する場合も生まれています。自治体も伐採届の改善、衛星画像の活用、警察との情報共有などに動くようになりました。

盗伐はれっきとした犯罪です。引き続き、問題の解決と発生防止にいつそう力を尽くします。



持続可能な林業を

土砂災害招く 政府の皆伐推進政策

政府の林業政策は、林業の効率化や花粉症対策を名目に高性能林業機械を導入し、大規模に伐採してコストカットを図ること。この方針が大雨による土砂災害を招いています。

2021年、東京大と自伐型林業推進協議会の調査で、前年に発生した球磨川の大水害の背景に、広範囲で大規模な皆伐施業があったことが分かってきました。



土砂災害に見舞われた球磨川上流部の集落

▶田村議員「球磨川上流部の集落では、急斜面を広範囲に皆伐され、崩れた土砂がふもとの集落を襲った」「森林は雨水を受け止め、土砂崩れを防ぐ重要な機能がある。『皆伐』は、土砂災害の温床」「崩れない森をつくる自伐型林業への支援に、大きく軸足を移すべきだ」（2023.11.16 農林水産委員会）

地域に根差す、持続可能な林業を応援

高性能林業機械を使った大規模な皆伐は、豪雨による土砂崩れ、鉄砲水、下流の洪水を引き起こします。森に暮らす生き物の生息域を壊し、生態系が失われます。

森林・林業は本来、環境保全、水害防止、地域振興など、多面的な価値を持っています。いま、こうした価値を守るため、長期にわたって間伐を繰り返し、持続可能な経営を目指す「自伐型林業」が全国で広がっています。

盗伐をなくすためにも、地域に根差し、森林の生態系を守る林業への支援を、政策の中心に据えるべきです。

宮崎の盗伐の現場。山林に放置された端材などは、いずれ谷に落ち、土砂災害の原因になります。



総選挙九州・沖縄の
比例名簿登載予定者



沖縄1区重複
衆議院議員8期
あかみね政賢 現



衆議院議員3期
田村 貴昭 現



鹿児島2区重複
元・鹿児島県議
まつざき真琴 新



前・沖縄県議
島袋 恵祐 新

制度解説

比例代表は「**日本共産党**」と政党名で



田村貴昭HP

日本共産党

九州沖縄民報 2024年 秋号 発行：日本共産党国会議員団九州

沖縄ブロック事務所 福岡市中央区薬院3-13-12 大場ビル3階 tel：092-526-1933